

講義名	教養特講 (プレゼンテーション技法実践)			
担当教員	大島 淑恵			
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 5時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要

企業や社会の中で協創をとまなう活動とその機会において、他者の理解を得るためにプレゼンテーションによる働きかけが求められる。特に、不確実な状況下において、相手に何を伝えるのか、どのように伝えるかを論理的に設計し、その結果として何を伝えられたかが問われる。本学では、演習や社会連携・社会共創活動における活動などで、「プレゼンテーション」の機会が多く設けられている。しかしながら、その技法については、それぞれの授業内やプロジェクト内で実践的に学ぶことが多く、体系的に学ぶ機会が少ない。これまで、発表用のスライドはできているがプレゼンテーションとしては未熟であることも多くみられた。この授業では「教養特講 (プレゼンテーション技法入門)」と連携し、プレゼンテーションの実践力を身につける。そして、社会共創活動や社会に出て、通用するプレゼンテーションの力を養う。

到達目標

1. プレゼンテーションの知識と技術を身につけて実践できる。
2. 目的意識を持ってテーマに沿った準備と発表ができる。
3. 目的意識を持ってプレゼンテーションの実践を理解できる。
4. プレゼンテーションのためのビジュアル効果を意識したデザインができる。
5. 働き手を主体としたプレゼンテーションが実践できる。
6. 相手に働きかけるための伝え方ができる。

提出課題

- ・授業の振り返りコメントを毎回提出
- ・プレゼンテーションのコンセプト設計案の提出
- ・プレゼンテーションのストーリーラインと骨子の提出
- ・プレゼンテーション発表資料の提出
- ・発表シナリオの作成と提出
- ・自己評価票の提出
- ・他者評価票の提出

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

- ・提出物を評価しコメントをフィードバック予定。
- ・プレゼンテーション中間発表時にコメントにより完成度の向上を図る。
- ・完成プレゼンテーション発表後に講評を実施する。

評価の基準

- ・提出課題 (30%)
- ・授業への積極的参加度 (10%)
- ・プレゼンテーション課題資料 (30%)
- ・プレゼンテーション発表 (30%)

履修にあたっての注意・助言他

- ・プレゼンテーションを完成させるには、積極的な授業参加が必要。
- ・実践的な取り組みが中心となるため、積極的な授業参加が望ましい。
- ・自ら気づきを得られるよう、テーマやコンセプトに関連のあるニュースにアンテナを張り、日頃から情報収集を心がけること。

教科書					

プリント資料及び参考文献

授業毎に資料配布および参考文献等を提示

授業計画

1. 授業の概要と評価方法の説明
2. プレゼンテーションの基本：目標設定と構想から企画立案について (入門編の復習)
3. プレゼンテーションの構成：ストーリー構成により成果・結果までの展開 (入門編の復習)
4. プレゼンテーションの表現：情報を活かすためのビジュアル効果 (入門編の復習)
5. プレゼンテーションの準備(1)：課題への取り組み(イントロとゴール設定)
6. プレゼンテーションの準備(2)：コンセプトとストーリーライン、ストーリー展開のシナリオ
7. プレゼンテーションの準備(3)：課題の総評と評価
8. プレゼンテーションの実践(1)：資料作成について
9. プレゼンテーションの実践(2)：テーマ選定と背景と目的、問題提起と改善・解決案、到達目標
10. プレゼンテーションの実践(3)：個人課題の総評と評価、企画・設計における自己評価の実践
11. プレゼンテーション発表準備：リハーサルと点検
12. プレゼンテーション個人課題(1)：発表と質疑応答、他者評価
13. プレゼンテーション個人課題(2)：発表と質疑応答、他者評価
14. プレゼンテーション個人課題(5)：発表と資料の自己評価と振り返り
15. まとめ

この授業計画はシラバス執筆時のものであり、受講生数によっては、変更する可能性がある。対面授業を基本としたものであり、学習状況の変化に応じて変更する可能性がある。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> ア：PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

本学では、学期上、2単位を修得するためには、15回の授業と、1回の授業に対して、4時間の予習・復習等の教室外学習が必要であるとされている。

- ・課題に対してグループでの役割分担により、進捗を図りながら進め、(担当部分に関し、30-40分)
- ・具体的には、毎週間グループ内で確認をし、学生自身が考え行動することが必要となる。
- ・疑問については、積極的にメール等を通じて教員に問い合わせるようにすること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

事象を多角的視点で考察し、問題の本質が何かを自身で問うことにより、新たな発想の起爆となるような思考を持つことが大切であることに気づくことができる。個人の意見を大切にしつつ、他者の考えや意見を肯定的に見る事ができる。そこから、協創へと繋げることができ、独りよがりにならない改善・解決策を講じられるような発想へとつなげることができる。他者に向けて積極的な発表ができるように基本的な技法を踏まえて、相手の意思決定や行動変容を促すことを意識できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・学生主体による実践であり、活発な対話を図りながら展開していく。
- ・実践的な課題に対し、プレゼンテーションの設計から発表を、自己評価と他者評価を交えて完成度を高めていく。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」

- ・オフィス機器メーカーにて、企業へ販売促進のためのプレゼンテーションを実施。
- ・社内の業務改善や新規企画や企業への業務改善を提案。
- ・勤務校にて、企画立案・改善提案に携わる。
- ・パソコン教室経営および企画・運営に従事。

備考

対面授業を基本としたものであり、新型コロナウイルス感染症等による学習状況の変化に応じて変更する可能性がある。